答辞

やわらかな春の日差しに、桜のつぼみも膨らみ、春の訪れを感じる季節となりました。ただ今、理事長先生、校長先生、ご来賓の皆様方、在校生の方からの温かいご祝辞と励ましのお言葉を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。

十二歳の春、大きめの制服に身を包み、この学校の門をくぐりました。初めての事だらけに圧倒された一年生、かわいい後輩ができた二年生、そして今日までの三年生。楽しかった時間はあっという間に過ぎ、今日私たち二十名は尾道中学校を卒業します。しかし、この場に立っている今もその実感が湧きません。明日も普段どおりの時間に起き、学校に来てしまいそうです。それほど長い時間、私たちはここで過ごしてきたのだなと感じています。

三年前、公立中学校ではなく私立中学校へ入学することは、当時の私からすると、とてつもなく誇らしいものでした。小学校生活の中でつくり上げてきた友人関係を一旦置いて新しい友達をつくっていかなければならない不安ももちろんありましたが、期待の方が勝っていました。しかし、いざ入学してみると自分の思い描いていた中学校生活とは違うものでした。離れた友達の話を聞いてみると、学校生活も大変充実しているようで、どんどん取り残されていく気持ちになりました。しかし、今は寸分もそんな気持ちはなく、この尾道中学校へ進学することができ、そしてここで三年間過ごせたことを、とても大きな誇りとして抱くことができています。そう思えた理由はここ尾道中学校でしか得られなかった人との出逢いがあったからです。

中でも三年間一番長く時間を共有した二十名のクラスメイトへの思いは一言では語り尽くせないものがあります。特に思い出として残っているのは二年生の文化祭と修学旅行です。二年生の時の文化祭は台風で中止になりました。中学校入学して初めてのクラスとしての一大プロジェクトで、皆が一丸となり一つの目標に向かい進んでいた最中の出来事でしたので、ショックが大きかったのを今でも覚えています。もちろん失ってしまったものもたくさんありました。しかし、それ以上にかけがえのないものを得ることができたのではないかと思っています。

そして、沖縄への修学旅行。写真や活字だけでは伝わらない実体験の素晴らしさを、この上ない喜びとして感じることができました。平和に対する考え、戦争に対する考えをより一層深めることが出来ました。また、沖縄で見たきれいな海や不思議な色の魚。その景色は今でも忘れられません。

他にも先輩や後輩たちとの出逢いは現在の私にとっても非常に大切なものです。一年生の頃、悩んでいた私は先輩たちの何事にも楽しく真剣に取り組む姿勢を見て、私はこんな風になりたいという目標ができました。私たちが後輩のみんなにそういうことを伝えられたかどうかはわかりませんが、少しでも何かを感じてくれていたら最高です。

そして私の場合、出逢いが出逢いを生み、ラグビーというスポーツに出逢い、自分の思い描いていた高校生活とは違う、新たな道に一歩踏み出します。それはただ、もはや自分の一部分だけではなく、自分を構築してくれてもいます。私のように出逢いが形を変え、自分自身の目標になるかもしれません。だから、私は出逢いを大切にしたいです。

今、この人生の大きな節目を迎えるまでに、両手両足では数え切れないほどのたくさんの方々に迷惑をかけ、ここまで辿り着くことができました。友達、家族、先生…それぞれ迷惑をかけた人は違います。ただ共通する感謝すべき存在は、三年間で私たちに関わって下さった先生方に違いありません。人生において思春期という特にでこぼこした時代に私たちを受け止めてくださりありがとうございました。

そして、そもそもこの場に今立てているのは親という存在のおかげです。今まで十五年、こんなに大切に育ててくれて本当にありがとう。自分が生まれて今まで、応援してくれていなかったことは一度もありません。一日三食、ご飯を作ってくれました。学校にも通わせてくれました。叱ってくれました。褒めてくれました。たくさんのことを僕たち子どもにしてくれました。本当にここまで育ててくれてありがとう。そしてこれからもたくさん迷惑をかけます。宜しくお願いします。

本当にたくさんの人から私たちは愛をもらって今この場に立てていられるのだなと感じています。その今までの十五年でもらった愛を大切に、これからは他の人に与えられる存在になりたいと思います。

本当に尾道中学校に入学できて良かった。色んな人に出逢えて良かった。たくさんのことに気づけて良かった。

歳月人を待たず。私たちは、新たな自分の道を勇気を持って進んでいきます。そして、ここで得たものを大切にして、どんな困難なことも乗り越えていきます。

最後に、この三年間で私たちに関わって下さった全ての人々に感謝し、尾道中学校のますますのご発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。

平成二十六年三月十五日　　卒業生代表　岩井　響